
蛇

石鍋 盥回し

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蛇

【Zコード】

Z5854E

【作者名】

石鍋 盤回し

【あらすじ】

それは、宇宙かもしれない。あるいは、それが神様かもしれない。または、ただの愚かな存在なのかもしれない。もとより、すべてが虚構かもしれない。アルファかもしれない。オメガかもしれない。虚無かもしれない。すべてかもしれない。ただの、蛇。

大きな蛇がいたのだ。

ほら、どこの神話にもヨルムンガルドつてのがいるでしょ。

そんなイメージを持つてもうえは概ね正しい。

口を開き、閉じれば大事だったものも、嫌いなものも、そしてなんとも思わないものもすべてからく飲み下してしまうのだ。

そして加速度的に、蛇は更に巨大になつていいくのだ。

多くの場合、大事なものつていうのがすぐ近くにあるものだから、真っ先に蛇が消化してしまったものは大事なものだった。

そして蛇は、諦めて、その巨躯を呪つた。

この蛇の名前は、おいつか。

この蛇は、えらかったんだ。

巨大であるところはそれだけたくさんのかを食べなくちゃならない。

蛇は身近に大事なものがあると知っていたから、他の何かであったならば死んでしまうくらい、口を開ざし続けていた。

一度、そつと飲み込んでしまつてから、一度目の口を開くことを止

めたんだ。

ある日、蛇は我慢が出来ないほど空腹に、微かに尾をふるつた。

その遠大な尾は、わずかばかり動かしたつもりであつたけれど、近くにあつたような大事だったものも、嫌いなものも、そしてなんとも思わないものもすべからく吹き飛ばしてしまつた。

そして嘆き、口を開いた瞬間に、雀の涙ほど残っていた大事なものは、蛇のお腹の中に納まつてしまつた。

この蛇の名前も、お腹の中に納まつてしまつたようだけれど。

蛇は巨躯を呪つていた。そして、このヤカイにそぐわないそれを自分に寄越した何者かを憎んだ。

もはや、蛇の周囲には何もなかつた。

虚無。その概念と、蛇しかなかつた。

失うことさら、もう出来なかつた。

たつた一度きり、蛇は怨嗟をつむいだ。

その口元、己の尾が飛び込んできた。

痛みに呻くと、更に深くわが身に牙は食い込み、更に更にわが身を飲み込んでいく。

頑丈だつた鱗が牙にしきぎ落とされきりきりと舞つた。

蛇は、苦痛の限界を超えたからなのか、蛇のあざとの毒のせいなのか、だんだんと痛みを覚えなくなってきた。

しばらくすると、ただ、ぼんやりと空腹を覚えていた。

次の一口で舞っていた鱗をすべて飲み込んだ。

加速度的に体が膨らんでいっては、同時に蛇はそれを上回らん勢いで口を喰らった。

蛇は……もとい、それは一つの固まりとなっていた。

膨張と収縮を延々と繰り返す不定形の固まり。

そのおなかの中には虚無を除いたすべてがあった。

それはつまり 蛇を生み出した もの だった。

蛇以外を 生み出す もの だった。

(後書き)

んま、これ以上でもこれ以下でも、ないのです汗
ありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5854e/>

蛇

2010年10月16日05時03分発行